

10月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比DI値の動き

令和4年10月のDI値は8指標中、「景況」「売上高」「収益状況」「取引条件」「資金繰り」「設備操業度」「雇用人員」の7指標が上昇し、「販売価格」が下落となった。

2. 県内中小企業の景況の現状

今月も多くの事業者が原油・原材料やエネルギーの価格高騰の影響を受けている。また、急激な円安による影響も多く報告され、小売価格の高騰や経済活動の停滞等、先行きに不安を感じているようだ。転嫁についても引き続き多くの事業者が苦慮しており、雇用人員については外国人技能実習生の受入は回復しつつあるが、日本人従業員の確保が大きな課題となっている。これから冬に向け新型コロナウイルス感染症の第8波やその他の感染症にも警戒しつつ、事業を進める必要があるようだ。

組合員からは、物価高騰の影響を受けているため何か対策をしてほしい、県内組合・団体の事業可能な支援策の予算化を望む声や、建設業からは価格変動に対応した積算体系の見直しが急務との意見があった。

このような厳しい状況ではあるが、徳島県内の景況は緩やかに持ち直しており、人流が戻りつつある。イベント来場者数が今年の2割増であったとの報告や、小売業ではプレミアム付商品券事業により、売上、来客数共に一番多くなったとの明るい報告も寄せられ、ウィズコロナの下で景況が持ち直していくことが期待される。

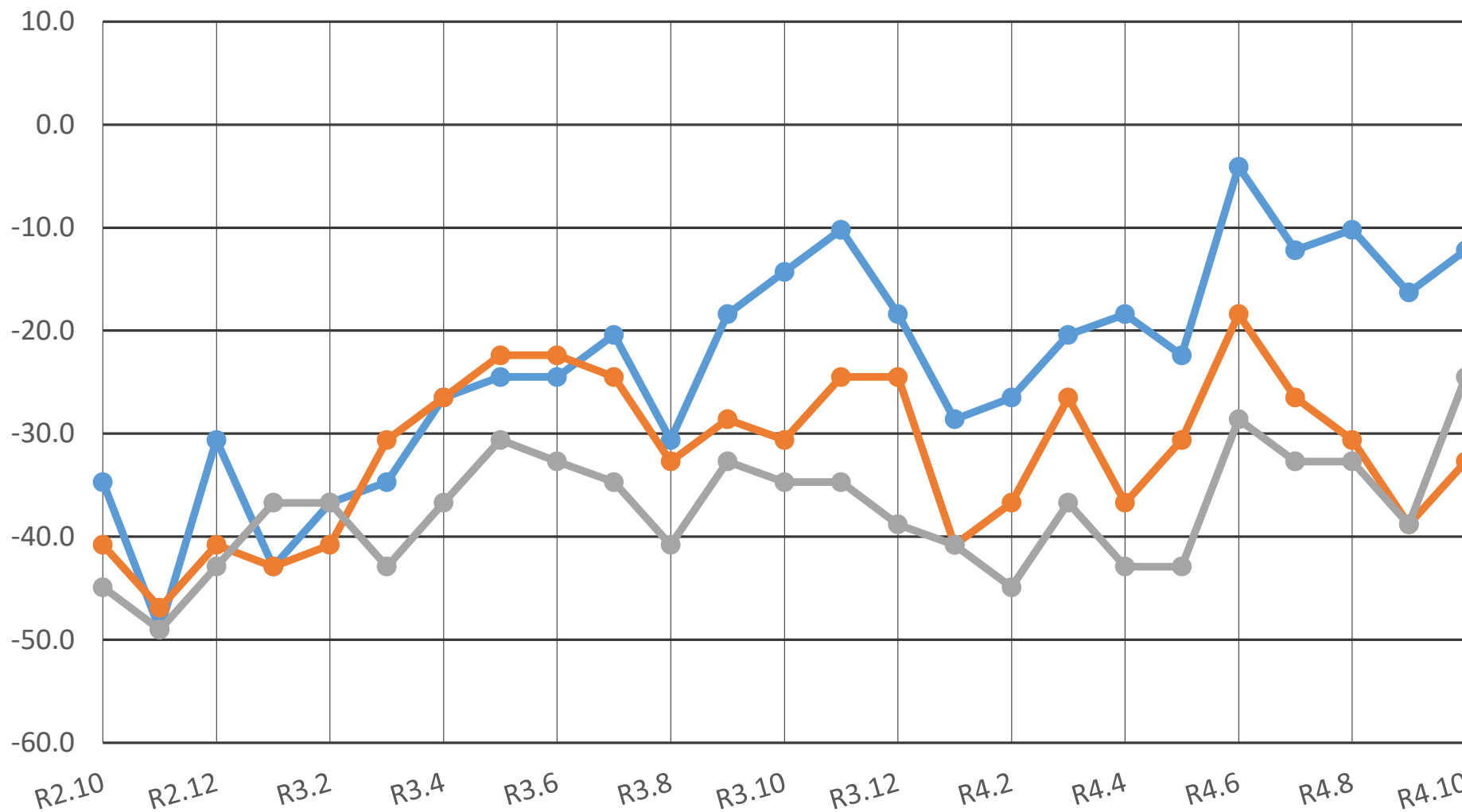
最近の主要指標の前年同月比DIの推移

	R3 10月	11月	12月	R4 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	前月比 増減
景況	-34.7	-34.7	-38.8	-40.8	-44.9	-36.7	-42.9	-42.9	-28.6	-32.7	-32.7	-38.8	-24.5	14.3
売上高	-14.3	-10.2	-18.4	-28.6	-26.5	-20.4	-18.4	-22.4	-4.1	-12.2	-10.2	-16.3	-12.2	4.1
収益状況	-30.6	-24.5	-24.5	-40.8	-36.7	-26.5	-36.7	-30.6	-18.4	-26.5	-30.6	-38.8	-32.7	6.1
販売価格	12.2	14.3	18.4	22.4	16.3	18.5	18.4	16.3	18.4	32.7	22.4	30.6	24.5	-6.1
取引条件	-6.1	-8.2	-8.2	-16.3	-24.5	-16.3	-12.2	-16.3	-12.2	-10.2	-16.3	-18.4	-16.3	2.1
資金繰り	-12.2	-16.3	-16.3	-16.3	-20.4	-20.4	-16.3	-14.3	-6.1	-12.2	-16.3	-22.4	-10.2	12.2
設備操業度	-4.1	2.0	-2.0	-4.1	-10.2	-8.2	-6.1	-6.1	-6.1	-8.2	-12.2	-10.2	-8.2	2.0
雇用人員	2.0	-10.2	-2.0	-10.2	-10.2	-12.2	-6.1	-8.2	-10.2	-8.2	-8.2	-10.2	-6.1	4.1

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。

前年同月比DIの推移

売上高 収益状況 景況



[景況関連の報告]

【製造業】

<食料品>

1. 味 噌・前年同月比で味噌の生産量は88.9%、出荷量は99.2%であった。前月比で味噌の生産量は111.9%、出荷量は98.4%であった。前年度9月はコロナ感染者が減少していたこともあり生産量は大幅に増えたが、今年は昨年ほどの増加は見られない。今後は新商品の開発などによる違った角度からの消費者へのアプローチも必要と思われる。
2. 漬 物・資材高騰の影響が大きく、利益を大きく圧迫している。外国人技能実習生の人員は回復しつつあるものの、希望する人員確保（日本人従業員も含む）には至っていない。

<繊維・同製品>

3. 縫 製・コロナ禍で不安定な海外生産に急激なが加わり、我々の業種は海外生産から日本生産にシフト傾向と考えられ、ブランドからの生産依頼が多くなっている。しかし為替が円高に振れた場合、再び海外生産が主流となり、受注に悩まされる事が懸念される。また、物価の上昇や人材不足については各社継続的に問題となっている。
4. 縫 製・労働力はほぼ確保完了。設備等の生産体制を中長期的に再構築を進める途上であり、本年度の設備は予定通り年末までに終了する運びである。生産面は、予定通りの備蓄生産が進行中。値上げは、生産関係の原材料費他は、ほぼ全取引において値上げとなり、エネルギー費も顕著である。為替による生産の影響も大きい。

<木材・木製品>

5. 製 材・昨年のウッドショック時に比べて売上は減少しており、様々な物価の上昇により経費は増えている。それでいて製品の価格には転嫁しづらい状況である。
6. 唐 木 仏 壇・徳島県唐木仏壇京都見本市において、昨年度と比べ来場者が2割増であった。
7. 木 材・やはり円安が影響して価格的には高止まり傾向が強いのは今まで通りですが、国産材の製材品について製材量が特に減少していると思われます。

<印 刷>

8. 印 刷・10月の売り上げは、昨年より回復したとはいえ3年前（令和元年）と比べると2割弱の落ち込みである。11月に入り今年度2度目の用紙値上げでお客様への対応に苦慮している。また、今年の忘年会はやってみようかと計画し、挑戦するところが出てきている。ようやくコロナ禍の長いトンネルを抜け、景気の上向き気配を感じられるようになったが、まだまだ油断は出来ない。
9. 印 刷・10月は比較的例年売上げ、収益ともに安定していい月であったが、ここ数年、コロナの影響であまりいい月にはなっていない状況だ。イベント関連や全国旅行支援で人の動きはあるが、その影響で印刷物が増える事もなく、用紙の値上げ、資材の値上げなどで収益が圧迫されこれから先の事を考えると不安である。

<窯業・土石製品>

10. 生 コ ン・10月の出荷量は昨年同月比、5%の増加であった。大型工事は佳境をすぎ少し落ち着いてきた時期であったが、まとまった打設が何度かあったことである程度の出荷になった。ただ前年度と比べて官工事の発注量は減少していると思われ、今後の見通しは減少することが予想される。
11. 生 コ ン・10月の出荷数量は、対前年同月比14%減であった。要因としては官工事での新規発注工事の減による。7月より生コン価格引き上げを行ったが、旧契約分の工事が残っており、値上がり分に対する対応が追いつかず収支は依然として厳しい。又更なる原材料の価格引き上げの対応を迫られ生コン業界の経営環境が厳しい状況に変わらない。

<鉄鋼・金属>

12. 鉄 鋼・業況感は、全体的に大きな変化はなく概ね横ばいで推移しているものの、の加速、エネルギーや原材料価格の上昇などによるコスト増加分を販売価格に転嫁できず収益の悪化を増している。国際情勢の悪化やに伴う経済活動の停滞、また人流増加に伴うコロナ感染再拡大への懸念など依然として、先行きの不透明感が拭えないところである。
13. ス テ ン レ ス・国内外ともに企業活動再開に向けた動きが活発化してきているが、物価の上昇や納品の長納期化についてはまだまだ改善の兆しは無く、先行きの不透明な状態は継続している。新型コロナウイルス感染数も増加傾向に転じて第8波の警戒も必要な状況になりつつある。これから冬場に向けインフルエンザ、ノロウイルスも含めた、感染症対策を実施し企業活動への影響を最少抑える対応を進めて行く。

<一般機器>

14. 機械金属・全国的に、新型コロナウイルスの感染者数は、落ち着きを見せていたが、再び増加への兆しが出てきており、諸々の不安定要因により、営業活動の停滞、部品の調達難に加え、輸送、エネルギー、原材料コストの高騰等から、受注状況の悪化が予想される。一部に景況感の持ち直しの動きも見られるが、引き続き、予断を許さない不透明な経営環境が懸念される。また、需要の停滞をはじめ、による小売価格の高騰、従業員の確保難なども、引き続き、経営上困難な課題として見受けられる。

【非製造業】

<小売業>

15. ショッピングセンター・10月の前年対比は売上100.6%、客数96.0%です。やっと100%を超えました。売上も客数も今年に入り10ヵ月間で一番多かったです。逆に言えば9ヵ月は100%行っていない、悪かったということになります。業種別にはサービス108.5%、衣料品105.8%、食品99.4%、住居関連98.5%、身の回り品93.5%の順となっており、衣料品は8月より3ヵ月間連続で100%を超えています。10/15より始まった地域経済活性化・プレミアム付商品券事業により消費が高まったと思います。

16. 電気機器・商品、部品、工事材料等仕入価格の上昇が続いており、しばらくは消費マインドの低下や収益の悪化等の影響が出てくると思われる。

17. 量小売業・値上がり前の在庫商品を積み増しし、防衛策は各々としているものの、それを使う仕事量が少なく、在庫を積んだままの状態がしばらく続いた。一般家庭用が少ない反面、営業用ホテル等が数件置換えを行った。新築は少ないがリフォームの和室は多い。

<商店街>

18. 徳島市・売上が伸びず組合費を払えないということで脱退する店舗がありました。

19. 徳島市・相変わらず状況は厳しい。少しだけ朝晩が涼しくなってきたので、コートの売れ行きに期待。

<サービス業>

20. 土木建築業・前年同月と比べて、売上高は増加しているが、人件費の上昇、Cadソフトの更新、PCの追加等の設備投資、1室借増したことによる事務所経費の増等で収益状況が悪化。テレワーク・リモートの縮小。

21. 自動車整備業・10月の新車登録台数は、登録車・軽自動車ともに前年度を上回り、特に軽自動車に関しては対前年度比50.9%増と大幅にアップした。これに対し、中古車登録台数は登録車・軽自動車ともに前年割れとなり、登録車は16.5%減となった。全体としては対前年度比16.6%増という結果。全国的に見ても9月に引き続き2ヵ月連続で前年を上回ったようだ。ロックダウンによる供給網の乱れが一服し、半導体などの部品不足も徐々に緩和しているため、販売増加につながったと見られる。

22. ビル管理・近年の最低賃金の急激な増額改定、原材料費の値上げ等が相まって厳しい経営環境下にあります。最低賃金の引き上げによる経営の圧迫については、契約先に理解を求める活動を粘り強く行っているところです。通常営業関係のホテル業に関しては、全国の宿泊・旅行割引キャンペーンの効果もあり、各イベント会場、会議室等の稼働も高まり、これに伴い客室稼働率はコロナ禍前の水準まで回復しています。今後さらに伸びるものと思われまます。このためこの分野でのビルメンテナンス業の売上げは回復基調にあります。しかし、コロナ関連の受入れのホテルにおいては、陽性者の高止まりが続いているため、受入期間の延長が続き、通常営業の再開は未定のまま、ビルメンテナンス業への影響は続いています。また、医療施設や高齢者利用所施設においては、コロナ陽性者の高止まりが続いている中、感染防止対策など引き続き管理者と連携し、細心の注意の下で業務を遂行しています。これらの課題への対応に加えて、コロナ後に備えて従業員の補填活動も大きな経営課題として取り組んでいるところです。

23. 旅行業・旅行業は全国旅行支援で受注は増加となった。しかし支援としては中小企業の旅行会社、会員にとって収益にはつながらず、依然厳しい現況が続く。全体的な物価高の影響も今後心配される。

<建設業>

24. 建設業・10月は、国、独立行政法人等及び県発注工事が減少した。全体の単月では前年比約48%減となっており、落ち込み著しい。特に請負額で、国土交通省四国地方整備局発注工事徳島河川国道事務所(-43%)。徳島県(-56%)のは中元が顕著である。

25. 板金工事業・新築上棟数が横ばいの分、リフォーム工事が増えている。

26. 鉄骨・鉄筋工事業・県内物件は、相変わらず見積・仕事量の少ない状況が続いており、仕事確保が重要課題となる。加工単価も含めて先行き不安。

27. 電気工事業・新設住宅口数は510件で、昨年同月比414.6%となった。

<運輸業>

28. 貨物運送業・取扱業種により異なるが、全般に量的に少なく低調に推移した。一方軽油単価は、前月平均比1円弱の値上りとなった。燃料油の高止まりが続く中、依然として運賃の値上げには厳しいのが現状である。

29. 貨物運送業・原油価格は相変わらず高止まりであり厳しい状況が続いている。荷動きには幅があるが、一部を除いて動いているようである。しかし燃料やメンテナンス等の費用負担がかさむが、運賃に転嫁できないため、苦しい現状である。自社努力では限りがあるため運賃交渉を粘り強く進める必要がある。